

令和 6 年度 学校関係者評価実施報告書

学校番号	23	学 校 名	静岡県立吉原高等学校	記 載 者	佐田 恵子
------	----	-------	------------	-------	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己 評価	関係者 評 価	意見
ア	生徒が主体的に取り組む機会を授業や学校行事等で用意し、自信と責任を持たせ、一人ひとりを伸ばす。	・「計画的な単元指導を行った」と答える教員の割合 90%以上 ・「学校行事に満足している」と答える生徒・保護者の割合 80%以上 ・「ルール大切さを理解し自ら実行できた」と答える生徒の割合 80%以上 ・「学校行事に満足している」「生徒会活動などが活発に行われている」と答える生徒の割合 80%以上 ・「先生はよく褒め、認め、励ましてくれる」と答える生徒の割合 85%以上	A	A	・成果目標を概ね達成できており高く評価できる。 ・Instagramを見ていても、高樓祭などの学校行事以外にも、地域での活動やボランティアなど、色々な活動を行っている様子が見えた。今後もいろいろな行事を検討し、進めてほしい。授業はもちろん大切だが、社会人になってから必要な人間力、コミュニケーション力、忍耐力、考察力を身に付けられるような活動が重要だと感じる。 ・高1ギャップをかかえる生徒も少なからず存在すると考えられる。それを念頭に1年部、学校全体が組織的かつ丁寧に生徒や保護者に対応できていると思う。2年生については、コロナ禍での生徒の経験不足を考慮し、生徒の目線に立った実践ができていたことを評価したい。 ・公開授業の参観やInstagram等に掲載されている情報から、生徒が授業に真剣に参加し、課外活動においても活発に活動していると感じた。一人ひとりの生徒自身に責任感や自信がなければ、このような躍動的で充実した様子は見られないと思う。 ・高校生ともなれば、一般的には自治能力も問われる。今後も是非、生徒の言葉に耳を傾け、高校生として必要な資質・能力を育んで欲しい。

様式第 5 号

イ	心身ともに健康で安全・安心に取り組むことができる教育環境を整える。	・「自分は価値ある人間であると思う」「自分の思い、考えを言語化できる」と答える生徒の割合 80%以上 ・生徒に関する担任等との情報交換会年 3 回以上 ・「保健講座をよく理解できた」と答える生徒の割合 80%以上、生徒の清掃参加率 100% ・前年度と比較して長期欠席生徒数減少、「教育相談だより」を学期に 1 回発行する。 ・施設・設備不良における事故 0 (ゼロ) ・各学期末「連続した欠遅早生徒への対応が十分できた」と答える教員の割合 80%以上 ・前年度と比較して遅刻総数減少 ・「自分は日頃挨拶ができている」と答える生徒の割合 80%以上 ・「自分の思いや考えを言語化できる」と答える生徒の割合 80%以上	B	B	・成果目標を概ね達成できており、高く評価できる。長期欠席者が激減したことは、何か特別な取組があったのか。 ・自己肯定感を持つ生徒が 8 割以上だが、そうでない生徒は何を思っているのか。うまく仲間と関わることをできない生徒に対しての気づきや対策を学校全体で引き続き考えていってほしい。 ・地域の幼稚園との交流活動や台湾姉妹校との交流、地域に住む外国人向けへの災害ボランティア活動は、生徒自身が心身ともに健康であり、不安を感じていないからこそ、行える行動ではないかと思う。 ・文科省「高校生の生活と意識に関する調査」における回答と比較すると、吉原高校の生徒が非常に優れているか、調査項目に課題があるとも見受けられ、調査項目の再考も必要ではないか。 ・効果があった具体的な取組を整理して検証することを望む。
---	-----------------------------------	--	---	---	--

ウ	生徒の学習意欲を喚起し、その潜在的な能力を引き出す探究的な授業を行い、確かな学力を育成する。	・1 週間の家庭学習時間の 1 日平均が、1，2 年生 2 時間以上 3 年生 2.5 時間以上 ・「ICT 機器を活用し授業を展開できる」と答える教員の割合 90% 以上 ・「校内研修が授業改善に役立った」と答える教員の割合 70% 以上 ・「探究的な授業や学習評価に関する授業を実践できた」と答える教員の割合 80% 以上 ・英語検定等の外部検定で CEFR B-1 以上取得率 20% 以上 ・「3 分前着席が実行できた」と答える生徒の割合 80% 以上 ・「自分は授業の内容をわかっている」と答える生徒の割合 80% 以上 ・LHR で学年全体の取組を学期に 1 回実施する。 ・「総合的な探究の時間が進路選択に役立った」と答える生徒の割合（2 年 80% 以上、3 年 90% 以上）	B	B	・成果目標を概ね達成できており高く評価できる。ただし、家庭学習時間のアンケート調査項目については再考が必要である。 ・ICT を活用することで、視覚的に理解ができ、生徒のスキルアップに繋がる。もっと積極的に活用してほしい。 ・ディスカッションや発表の場は、社会人になってからもとても重要だと思う。 ・学習時間の数字よりも学習内容に目を向けたい。学習したことが生徒に身に付いているのか、細かい指導が大切だと思う。各教科で研修を深めてほしい。 ・授業内容のビデオや課題の解説がオンラインで見られるなど、工夫できるとよい。 ・授業見学や文化祭の様子、校内の掲示物等から探究的な授業により学力が培われていると感じた。 ・どの項目も大変評価が高い。次年度は成果目標の再考が必要になる。
---	---	---	---	---	---

様式第 5 号

エ	生徒が高い志を持ち、自己実現に向けた主体的な取組を支援するキャリア教育を推進する。	・参加者に事前指導を 2 回実施して意識を高め、単 位 修 得 率 100% ・「「吉高ゼミ」が進路選択に役立った」と答える生徒の割合 70% 以上 ・「上級学校選択のみならず、生き方や社会との関わりを長期的な視野で主体的に考えるようになった」と答える生徒の割合 90% 以上 ・「進路を開拓するのに進路学習室が役に立った」と答える生徒の割合 90% 以上 ・「「吉高ゼミ」が進路選択に役立った」と答える生徒の割合 80% 以上 ・「共通テストの情報を理解した」と答える生徒の割合 80% 以上 ・「主権者教育、キャリア教育に対する意識が向上した」と答える生徒の割合 80% 以上 ・「進路指導に関して学校と家庭が連携できている」と答える生徒、保護者の割合 80% 以上	B	A	・成果目標を概ね達成できており高く評価できる。 ・3 年次の個別指導が大変役にたったと保護者として感じている。他の学校と比較しても一人ひとりの進路について真剣に相談に乗ってくれている印象がある。 ・一人ひとりの将来の夢の実現に向けた学習が重要だと考えるので、社会のさまざまな仕事を知るためにも、低学年のうちに職業講座等のさらなる充実が望まれる。 ・職業理解について、生徒の考えや希望を取り入れたものが実施できるとよい。 ・学校の指導により、自身の将来をより真剣に考え、成長したと保護者として感じている。これは主体的な取組を支援するキャリア教育の効果ではないかと思う。 ・進路選択については、兄弟がいってもとても分かりにくい。今後できるだけ分かりやすく説明をしていただきたい。 ・進路指導に関する保護者の満足度の課題を分析してほしい。
---	--	--	---	---	--

様式第 5 号

オ	国際交流等を通じて国際理解教育を推進し、互いを尊重しグローバルな視野を持った生徒を育成する。	・「外国の学校との交流が異文化理解の興味につながった」と答える生徒の割合 80%以上 ・「研修が表現力向上に役立った」と答える生徒の割合 80%以上 ・「国際理解の意義を理解し意識が向上した」と答える生徒の割合 80%以上 ・「海外異文化体験、修学旅行を通じて視野を広げた」と答える生徒の割合 80%以上（2年生）	A	A	・成果目標を概ね達成できており高く評価できる。 ・国際科の異文化交流に関して、さまざまな活動が見られた。インスタグラムでも生徒の生き生きとした様子が感じられた。このような機会は重要であると感じた。 ・国際科と普通科の連携を考えたグローバルな学習が素晴らしい。 ・間違いなくグローバル人材の育成になっていると思う。 ・国際科があることの強みを生かした教育課程を編成していることに工夫が見られる。
カ	地域との連携をさらに深めるとともに、保護者・地域の期待に応える魅力ある学校づくりを推進する。	・ホームページ、X 更新 350 回以上 ・「進路指導に関して、学校と保護者の連携は適切である」と答える保護者の割合 80%以上 ・「地域防災訓練に参加した」と答える生徒の割合 80%以上 ・年 1 回開催する ・月 2 回以上の発信が 70%以上（年間 17 回以上） ・「学校の情報発信はわかりやすい」と答える保	B	B	・ホームページ、X、インスタグラムに関して、昨年度比で更新頻度が高く、学校での活動の様子がよく伝わった。しかし、このような方法で情報を発信していること自体を知っている生徒、保護者も少ないのではないかな。もっとアピールしていくとよいと感じた。 ・情報の更新数が多いことはとても素晴らしいが、一方で教職員の負担となっていないかとも思う。 ・進路に関して、1、2 年の時からもっと保護者とのやり取りがあるといいと思う。 ・インスタグラムや地元紙の記事からも地域との連携、取組はとても活発と感じる。地域からもよい評価を聞いている。 ・保護者との連携については、適切、という部分をさらに踏まえ、行っていく必要があるのではないかな。 ・防災訓練参加への指導については課題が見られた。地域ともっと連携してほしい。積極的に参加できる方策を立案する必要がある。

様式第 5 号

		護者の割合 80% 以上 ・学校運営協議会の意見を学校運営や学校の課題解決に生かす。			
キ	「チーム吉高」として教職員が協働的な教育活動・事務室経営を行うとともに、ワーク・ライフバランスの向上に努める。	・「教職員の負担を一部でも軽減できた」と答える教職員の割合 90% 以上 ・情報交換等（分掌会議、担任会等）を定期・定期的に全分掌・学年が行う。 ・「計画的に業務を行った」と答える教職員の割合 80% 以上 ・「ICT を活用した業務改善を行った」と答える教職員の割合 90% 以上 ・検査・監査での文書指摘事項 0（ゼロ） ・前年度と比較して時間外勤務総時間数減 ・各自が週 1 日定時退勤曜日を定め、「概ね週 1 日は定時退勤できた」と答える教職員の割合 90% 以上	B	B	・ICT の活用や様々な活動に地域の方々や保護者に協力していただくなどして、引き続き教職員の負担を軽減するよう改善を進めていただきたい。生徒のため、優先順位とバランスを考えて行ってもらいたい。 ・限られた時間の中で教職員が夢を持ち語り、より魅力のある授業や学級経営・学校経営を目指すことは、生徒に反映されます。教職員が元気で楽しい学校生活を送ることが生徒の姿に反映されると思う。チーム吉高が一丸となって、語り合い、互いに研修を行ってほしいと思う。